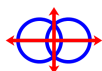


ロジバンってなんだ？



: ロジバンのトレードマーク

Q. ロジバンって端的にはなんなんだ？

ロジバン (lojban [loʒban]) は、**人工言語**です。では、人工言語とは何なのかというと、簡単には「人によって作られた言語」と言えます。しかし、「全ての言語は人によって作られたのでは？」という声が聞こえてきそうですね。もう少し詳しく言うと、人工言語とは「個人や団体などによって語彙や文法が人為的に作られた言語」[1]です。つまり、「自然発生した言語ではない言語」ということです。日本語や英語、フランス語、ロシア語、ラテン語などなどは自然発生的な言語 ということで、人工言語ではなく、代わりに**自然言語**と呼ばれます。ロジバンは人工言語であり、特定の団体 (LLG) によって開発が進められています。日本で有名な人工言語といえば、エスペラント、アルカ、ノシロ語、トールキン氏のエルフ語などがあるでしょう。

ちなみに、人工言語は英語では**conlang**と呼ばれます。これは、“constructed language”の略語ですね。日本語でも、人工言語のことを他に**計画言語**と呼ぶことがあります。

また、「言語」というと、プログラミング言語も入りますが、ロジバンは対人間での使用を目的に作られた言語です。

Q. もうちょっと深くロジバンについて教えて！

ロジバンは(人工言語を含む他の言語ではあまり見られない)**述語論理**を文法の基盤に置いているため、ロジバンは述語論理の性格と自然言語の性格という2つの性格を備えています。そこで、この双方からロジバンを見てみましょう。まずは、述語論理の性格から見ていきましょう。**述語論理のことが分からない人は飛ばしてもらって構いません！**

述語論理の性格

ロジバンをとっても素朴に捉えたと、述語論理式の音声化と捉えられます。そのため、括弧記号 ({ }) や () などといった、自然言語では記号として扱われるようなものにも自然な音声を与えられています。

さらに、様々な構造開始語(自然言語でいう冠詞など)には対応する構造終了語が用意されているので、構文が一通りに定まるようになっています。たとえば、英語には名詞節の開始語として “that” がありますが、それに対応する終了語はありません。カンマを使うことで、節が閉じていることを示唆させることはできますが、ロジバンではそういった語があらかじめ用意されています。

ちなみに、日本語は構文が一通りには定まりません！「頭が赤い魚を食べた猫」を考えてみてください。これは、「魚の頭が赤い」と「猫の頭が赤い」の、少なくとも2つの構文解釈が考えられます（実はあと3通りの解釈の仕方があります！）。

文法基盤が述語論理であることから想像できるように、ロジバンの基本文は**命題**に相当するものです。ロジバンの文法用語には独特なものが多いのですが、そのいくつかは述語論理の用語と対応づけられ、実際それらを訳語としているテキストは多いです。以下にその例を示します：

ロジバン	bridi (ブリディ)	sumti (スムティ)	selbri (セルブリ)
述語論理	命題	項	述語

また、その文法基盤ゆえ、文の中心的存在となるのは**述語**です。ロジバンでは、基本的な述語 (gismu (ギスム) , 根語) が1000語ほど定義されており、その他にも、それらの組み合わせ (造語) や、他言語からの借用により、様々な意味の述語が用意されています。特に造語法は注意深く設計されているので、同音異義語が発生しません。同音異義語に関連していうと、外来の固有名詞がロジバン本来の単語と発音 (綴り) が重複しないように、それらにはシンプルで強力な形態論上制約 (綴りのルール) がかけられています。

文を織りなすのはあくまで述語ですから、ロジバンには動詞、形容詞や名詞といった品詞分類もなければ、SOVやSVOなどの文型区分もありません。

自然言語の性格

前述の通り、性格の1つに述語論理があるため、ロジバンは「述語論理の自然言語的用法の試み」と言えるかもしれません。しかし、述語論理では網羅しきれない要素をロジバンは備えており、それが自然言語へのアプローチ、自然言語の性格と言えます。

述語論理はその真偽を問題とするような文を取り扱います。しかし、自然言語には必ずしも真偽を問題としないような発言（挨拶、呼びかけ、感嘆詞など感情表現など）もあるため、ロジバンはそれらのための語彙も実装されています。また、意味が文脈に依存するような語（代名詞がその典型）や、不特定なものを指す語（英語でいうsomething）も備えており、述語論理の骨組みで自然言語的な記述ができるように設計されています。

また、ロジバンの基本文は述語論理でいう命題に相当するものではありませんが、その記述形態は述語論理の「 $F(x_1, x_2, x_3)$ 」のような無機質なものでなく、

$x_1 F x_2 x_3$ （見た目がSVO的）

や

$x_1 x_2 F x_3$

や

$x_1 x_2 x_3 F$ （見た目がSOV的）

という、自然言語らしさが感じられるものになっています。

Q. ロジバンのすごいところってあるの？

たとえば、こんなところでしょうか：

- 話者も含め、自分の文化的な背景に流れず努めて中立を保つことが志されている。たとえば、ロジバンの基本単語は、特定の文化に恣意的に偏らないようコンピュータを使って作られている。
- 名詞の男性・女性など、文化依存的な要素がない。
- 単数・複数、能動・受動、時制や相（アスペクト）の表記が義務的でない。明記しても、文脈に任せてもよく、かなり自由な作りとなっている。

Q. 述語論理が分からない人向けにロジバンの文の作り方を教えて！

ロジバンのエッセンスを教えましょう！ロジバンには文の内容を決める、「～である」を表す語と、モノトを表す語の2種類があります。前者を**デアル句**、後者を**モノト句**とも呼びましょう。デアル句はたとえばこんな感じで定義されています。

bartu : x_1 は x_2 の外／外部／外側である

cikna : x_1 は目覚めている

x_1, x_2 ってなんでしょう？これはまさにモノト句が入る場所を示しています。たとえば、「私は目覚めている」と言いたいとしましょう。ロジバンで「私」は {mi}（み）といいますから、{mi}と{cikna}を使えばよさそうです。

あとは並べるだけです！並べ方は簡単！色々な並べ方がありますが、もっともスタンダードな並べ方は、

x_1 [デアル句] $x_2 x_3 x_4$

です。では、「私は目覚めている」は？……そうです、{mi cikna}です！

{do}「あなた」、{ti}「これ」、{ta}「それ」、{tu}「あれ」、{zo'e}「何か」、{lo jbobau ku}「ロジバン」、{lo ponbau ku}「日本語」、{lo nixli ku}「少女」、{lo mlatu ku}「猫」、{lo te pemci ku}「詩人」、{lo prami be mi ku}「私を愛する人」、{lo se prami be mi ku}「私に愛される人」を使って、色々な文を作ってみてください。

例：.i mi patfu do .i do bersa mi — 私はあなたの父親だ。あなたは私の息子だ。

この本のメインである、**PJCG gimste**は、デアル句（内容語、brivla）のうち基本単語を厳選したリストになっています。

※ 発音は基本的に英語と同じで、読み方はローマ字読みとほぼ同じです。注意すべき発音は、「c」「シャ行」、「x」「軟口蓋摩擦音」、「tc」「チャ行」、「ts」「ツァ行」、「dj」「チャ行」、「dz」「ツァ行」、[アポストロフィ]「ハ行」です。

[1] : 「wikipedia「人工言語」」

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%BA%E5%B7%A5%E8%A8%80%E8%AA%9E> (15/1/10)

[2] : cogas 「はじめてのロジバン「ロジバンの特徴」」<http://seesaawiki.jp/hajiloji/> (15/1/10)

[3] : cogas 「新 はじめてのロジバン「ロジバンことはじめ」」<http://cogas.github.io/hajiloji/> (15/1/10)

2015/1/11 文責: cogas